

あなた
市民が主役のまなびづくり
 vol.10

企画課市民協働推進室(桜川市羽田989-1
 桜川市大和ふれあいセンター「シトラス」内)
 ☎0296-2016300

東日本大震災を経験して

・・・自分の力でできることで社会貢献

東北被災地に向け 広がる『支援の輪』

3月11日午後2時46分頃に発生した東日本大震災は、東北から関東にかけて大きな被害をもたらしました。

桜川市でも、多くの家で屋根や壁が崩れるなどの被害を受けています。市では現在、り災証明書発行や建物の被害調査を進めているところですが、被害の大きさを改めて実感しております。(P2く5に関連記事)

このような中、日本中で大きな被害にあった東北の市町村を支援しようと、多くの人たちが物資や義援金を送ったり、また、現地に行きボランティア活動に取り組んでいます。桜川市でも市民団体の方々が中心となり、

救援物資を送るなど支援の輪が広がっています。

桜川市地域女性会の皆さんは、岩手県遠野市のNPO団体の依頼を受け、服や生活必需品などを送りました。「被災地の人たちの役に立ちたい」と、食料品などを福島県の被災地に送ったのはNPO法人櫻の郷の皆さん。また、岩瀬地区では、有志の皆さんが茨城県を通して生活必需品を送りました。

さらに、「報徳サミット(二宮尊徳ゆかりの自治体で構成)」で交流のある福島県相馬市へ、報徳サミット桜川の皆さん、いきいき駅サイトの皆さん、劇団どてかぼちゃの皆さん、市議会議員、農業委員、桜川市職員互助会などから白米、タオルなどが送られました。このほかにも、

個人的に救援物資や義援金を送った市民の皆さんも多いことと思います。



シトラスで東北被災地への救援物資を集めた桜川市地域女性会の皆さん



食料品などを届けたNPO法人櫻の郷の皆さん

「新しい公共」 として注目される ボランティア活動

東日本大震災をきっかけに、「一つ一つの団体でできないことも、つながれば大きな力になる」、そんな意識が芽生え、NPOやボランティア団体同士が連携するケースが目立ってきました。

今年のゴールデンウィークは被災地でボランティア活動に取り組む人も多かったと聞き及んでおります。これは被災地ばかりではありません。自分のできることで社会貢献をしていく・・・このような動きが日本各地で進み始めました。

今やNPOやボランティア団体の活動は新しい公共として注目されています。

茨城県においても、大好きいばらき県民会議が、市民団体同士が協働で取り組む事業を支援する助成制度(上限10万円)を設けました。

市民活動や協働事業について興味をお持ちの方、または相談などがございましたら、ぜひ大和ふれあいセンターシトラス内市民協働推進室までご連絡ください。

有料広告掲載募集中!
 お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!
 お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ